(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第5882094号
(P5882094)
(45)発行日　平成28年3月9日(2016.3.9)　(24)登録日　平成28年2月12日(2016.2.12)

(51)Int.Cl.　　F I
A61F 13/15 (2006.01)　　A61F 13/18 370
A61F 13/472 (2006.01)　　B65D 30/10 Y
B65D 30/10 (2006.01)　　B65D 33/00 A
B65D 33/00 (2006.01)　　B65D 85/16
B65D 85/16 (2006.01)

請求項の数 10　(全 28 頁)

(21)出願番号　特願2012-65222(P2012-65222)
(22)出願日　平成24年3月22日(2012.3.22)
(65)公開番号　特開2012-254283(P2012-254283A)
(43)公開日　平成24年12月27日(2012.12.27)
審査請求日　平成26年9月17日(2014.9.17)
(31)優先権主張番号　特願2011-112926(P2011-112926)
(32)優先日　平成23年5月19日(2011.5.19)
(33)優先権主張国　日本国(JP)

(73)特許権者　000115108
ユニ・チャーム株式会社
愛媛県四国中央市金生町下分１８２番地
(74)代理人　110001564
フェリシテ特許業務法人
(72)発明者　野元　世界
東京都港区三田３－５－２７　住友不動産三田ツインビル西館　ユニ・チャーム株式会社内
(72)発明者　松村　有紀子
東京都港区三田３－５－２７　住友不動産三田ツインビル西館　ユニ・チャーム株式会社内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】吸収性物品の収容体

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
液透過性の表面シート、液不透過性の裏面シート、及び前記表面シートと前記裏面シートとの間に配置される吸収体を有する吸収性物品と、前記吸収性物品を個別に包装する包装シートと、を有し、前記包装シートの上に前記吸収性物品が配置された状態で、前記包装シートと前記吸収性物品とが折り畳まれて、前記吸収性物品が前記包装シートによって個別に包装された吸収性物品の包装体と、
前記吸収性物品の包装体を複数収容する収容袋と、を備える吸収性物品の収容体であって、
前記包装シートには、絵柄及び／又は記号を示す表示要素を有する表示要素部と、前記表示要素を有しない非表示要素部と、が設けられており、
前記収容袋の一側面には、内部に収容された前記吸収性物品の包装体を視認可能に構成する窓部が形成されており、
前記窓部を介して前記包装シートの前記非表示要素部のみが視認されるように構成されており、
前記収容袋の前記窓部には、前記表示要素を示す収容袋表示部が設けられている、吸収性物品の収容体。
【請求項２】
前記表示要素部は、前記吸収性物品を包装した状態における前記包装シートの側部のうち第１の側部に設けられており、

前記非表示要素部は、前記包装シートの側部のうち第２の側部に設けられており、
前記包装シートの前記表示要素は、前記第１の側部の厚み寸法よりも大きい、請求項１に記載の吸収性物品の収容体。
【請求項３】
前記包装シートの前記第２の側部は、前記窓部を介して視認可能に構成されている、請求項２に記載の吸収性物品の収容体。
【請求項４】
前記吸収性物品及び前記包装シートは、前記吸収性物品の長手方向に沿う第１長手折り目及び第２長手折り目を基点に前記吸収性物品の外側から内側に折り畳まれるように構成されており、
前記第１長手折り目は、前記第１の側部に配置され、
前記第２長手折り目は、前記第２の側部に配置されており、
前記表示要素部は、前記吸収性物品の幅方向において前記第１の側部を跨って設けられている、請求項２又は請求項３に記載の吸収性物品の収容体。
【請求項５】
前記収容体には、前記包装シートの前記表示要素部を視認可能に構成する補助窓部が形成されている、請求項１から請求項４のいずれかに記載の吸収性物品の収容体。
【請求項６】
前記表示要素部及び前記収容袋表示部は、第１色によって着色されており、
前記非表示要素部は、第２色によって着色されている、請求項１から請求項５のいずれかに記載の吸収性物品の収容体。
【請求項７】
前記吸収性物品の包装体は、第１吸収性能の第１吸収性物品を有する第１吸収性物品の包装体と、該第１吸収性能と異なる第２吸収性能の第２吸収性物品を有する第２吸収性物品の包装体と、を備え、
前記第１吸収性物品の包装体の前記表示要素部は、前記第１吸収性能を示す第１表示要素を有しており、
前記第２吸収性物品の包装体の前記表示要素部は、前記第２吸収性能を示す第２表示要素を有しており、
前記収容袋は、前記第１吸収性物品の包装体を収容する第１収容袋と、前記第２吸収性物品の包装体を収容する第２収容袋と、を有しており、
前記第１収容袋の前記窓部が形成された一側面には、前記第１表示要素を示す第１収容袋表示部が設けられており、
前記第２収容袋の前記窓部が形成された一側面には、前記第２表示要素を示す第２収容袋表示部が設けられている、請求項１から請求項６のいずれかに記載の吸収性物品の収容体。
【請求項８】
前記吸収性物品の包装体は、第１着色パターンで着色された第１着色パターン包装体と、第１色着色パターンと異なる第２着色パターンで着色された第２着色パターン包装体と、を備えており、
前記第１着色パターン包装体の表示要素部と、前記第２着色パターン包装体の非表示要素部とは、同じ色で着色されており、
前記第２着色パターン包装体の表示要素部と、前記第１着色パターン包装体の非表示要素部とは、同じ色で着色されており、
前記収容袋内には、前記第１着色パターン包装体と前記第２着色パターン包装体とが交互に配置されており、
前記収容袋表示部は、前記第１着色パターン包装体の表示要素部と、前記第２着色パターン包装体の表示要素部とのうち、いずれか一方の色によって着色されている、請求項１から請求項７のいずれかに記載の吸収性物品の収容体。
【請求項９】

前記表示要素部は、着色領域と、前記着色領域と同形状であって互いに一部重なって配置されている非着色領域と、を有する、請求項１から８のいずれか１項に記載の吸収性物品の収容体。

【請求項１０】

前記表示要素部の周りを取り囲み、前記着色領域とは異なる色から構成された別の着色領域が設けられている、請求項９に記載の吸収性物品の収容体。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は、生理用ナプキン等の吸収性物品が個別に包装された吸収性物品の包装体を複数収容した吸収性物品の収容体に関する。

【背景技術】

【０００２】

特許文献１には、吸収性物品を包装シートによって個別に包装した吸収性物品の包装体を、収容袋内に収容した吸収性物品の収容体において、吸収性物品の特徴等を示す絵柄を包装シートに付し、かつ収容袋に窓を形成して、窓を介して吸収性物品の包装体の絵柄が視認できるように構成した吸収性物品の収容体が記載されている。

【０００３】

上述の吸収性物品の収容体によれば、包装シートに絵柄が付されているため、装飾性を向上させることができる。更に、この吸収性物品の収容体によれば、使用者は、収容袋の外側から窓を介して包装シートの絵柄を視認して、吸収性物品の性能等の特徴や用途を把握することができる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００４】

【特許文献１】特表２００８－５２８３９８号公報（図１、段落００４５及び段落００４６等）。

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００５】

しかし、上述の吸収性物品の収容体には、以下の問題点があった。吸収性物品の収容体は、吸収性物品の包装体を複数収容しており、窓を介して吸収性物品の包装体の一部を視認できるように構成されている。例えば、特許文献１の図１に示すように、吸収性物品の厚み部分に絵柄が付されている場合には、窓を介して視認できる絵柄は、収容体全体の大きさに対して小さい。よって、使用者は、収容袋に収容された状態で絵柄を明確に認識することができず、吸収性物品の特徴等を把握し難いことがある。

【０００６】

また、吸収性物品の包装体の絵柄に加えて、吸収性物品の特徴等を示す文字を収容袋に付すことが考えられる。しかし、上述の吸収性物品の収容体において窓に重ねて文字を付すと、包装シートに付された絵柄と文字が重なり、文字の視認性が低下するおそれがある。

【０００７】

そこで、本発明は、上述の課題に鑑みてなされたものであり、吸収性物品の包装体の装飾性を向上させつつ、この吸収性物品の包装体を収容体に複数収容した状態において、吸収性物品の特徴や用途を使用者が容易に把握することができる吸収性物品の収容体を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００８】

上述した課題を解決するため、液透過性の表面シート、液不透過性の裏面シート、及び

前記表面シートと前記裏面シートとの間に配置される吸収体を有する吸収性物品と、前記吸収性物品を個別に包装する包装シートと、を有し、前記包装シートの上に前記吸収性物品が配置された状態で、前記包装シートと前記吸収性物品とが折り畳まれて、前記吸収性物品が前記包装シートによって個別に包装された吸収性物品の包装体と、前記吸収性物品の包装体を複数収容する収容袋と、を備える吸収性物品の収容体であって、前記包装シートには、絵柄及び／又は記号を示す表示要素を有する表示要素部と、前記表示要素を有しない非表示要素部と、が設けられており、前記収容袋には、内部に収容された前記吸収性物品の包装体を視認可能に構成する窓部が形成されており、前記窓部を介して前記包装シートの前記非表示要素部のみが視認されるように構成されており、前記収容袋の前記窓部が設けられた面には、前記表示要素を示す収容袋表示部が設けられている。

【発明の効果】

【０００９】

吸収性物品を包装する包装シートには、表示要素を有する表示要素部が付されており、収容袋には、包装シートに付された表示要素を示す収容袋表示部が付されている。収容袋の一側面には、内部に収容された吸収性物品の包装シートを視認可能な窓部が形成されており、この窓部を介して表示要素を有しない非表示要素部のみが視認可能に構成されている。窓部が形成された一側面には、収容袋表示部が設けられているため、その収容袋表示部における表示要素と、包装シートの非表示要素部とによって、包装シートと同じ装飾を表現することができる。着用者は、収容袋の外部から表示要素部及び非表示要素部を視認して、内部に収容されている吸収性物品の吸収性能等の特徴や用途を把握することができる。

【図面の簡単な説明】

【００１０】

【図１】実施形態に係る吸収性物品の包装体の肌当接面側から見た平面図である。
【図２】図１に示す吸収性物品の包装体の非肌当接面側から見た背面図である。
【図３】図１に示す吸収性物品の包装体の非肌当接面側から見た背面図である。
【図４】図１に示すＡ－Ａ断面の断面図である。
【図５】図３のＢ部分の部分拡大図である。
【図６】図１に示す吸収性物品の包装体の折り畳み工程を模式的に示した斜視図である。
【図７】包装シートの印刷方法を説明するための模式図である。
【図８】実施の形態に係る吸収性物品の収容体の斜視図である。
【図９】変形例に係る吸収性物品の収容体の斜視図である。
【図１０】変形例に係る吸収性物品の包装体の製造工程を模式的に示した図である。

【発明を実施するための形態】

【００１１】

図１から図４を参照して、実施形態に係る吸収性物品の包装体について説明する。図１は、吸収性物品の包装体の平面図であり、図２及び図３は、吸収性物品の包装体の背面図である。図２は、後述する包装シートの印刷を省略した状態であり、図３は、包装シートの印刷を示した状態である。図４は、図１に示すＡ－Ａ断面の断面図である。図１から図４に示すように吸収性物品の包装体１００は、吸収性物品１と、この吸収性物品１を個別に包装する包装シート７０と、を有する。本実施形態に係る吸収性物品１は、例えば、生理用ナプキンである。

【００１２】

吸収性物品の包装体１００は、包装シート７０上に吸収性物品１が配置された状態で包装シート７０と吸収性物品１とが折り畳まれることにより、吸収性物品１が個別に包装されるように構成されている。図１から図３は、包装シート７０によって吸収性物品１を個別に包装した後、吸収性物品１を開いた状態を示している。

【００１３】

吸収性物品１は、着用者の肌に当接する表面シート１０と、液体を透過しない液不透過性の裏面シート２０と、吸収体３０とを有する。吸収体３０は、表面シート１０と裏面シ

ート２０との間に配設される。従って、吸収体３０は、図１等において破線で示される。吸収体３０は、吸収性物品１の長手方向Ｌ及び幅方向Ｗにおける中央部分に配設される。また、吸収性物品１は、図１に示す平面視にて、吸収体３０を有し、長手方向Ｌに延びる吸収性本体と、長手方向Ｌに直交する幅方向Ｗにおいて吸収性本体の外側に設けられるウイング部４３,４４を備える。更に、吸収性物品１は、幅方向Ｗにおいて吸収体３０の外側に設けられるサイドシート４１，４２を備える。

【００１４】

表面シート１０は、体液等の液体を透過する液透過性のシートである。表面シート１０は、少なくとも吸収体３０の表面を覆う。表面シート１０は、不織布、織布、有孔プラスチックシート、メッシュシート等、液体を透過する構造のシート状の材料であれば、特に限定されない。織布や不織布の素材としては、天然繊維、化学繊維のいずれも使用できる。

【００１５】

天然繊維の例としては、粉砕パルプ、コットン等のセルロースが挙げられる。化学繊維の例としては、レーヨン、フィブリルレーヨン等の再生セルロース、アセテート、トリアセテート等の半合成セルロース、熱可塑性疎水性化学繊維、又は親水化処理を施した熱可塑性疎水性化学繊維などが挙げられる。熱可塑性疎水性化学繊維の例としては、ポリエチレン（ＰＥ）、ポリプロピレン（ＰＰ）、ポリエチレンテレフタレート（ＰＥＴ）等の単繊維、ポリエチレンとポリプロピレンをグラフト重合してなる繊維、芯鞘構造等の複合繊維が挙げられる。

【００１６】

また、本実施の形態に係る表面シート１０は、１つ又はそれ以上の材料から形成することができる。例えば織布、不織布、ポリマーフィルム、フィルム不織布ラミネートなど、並びにこれらの組み合わせを含むことができる。不織布は、空気堆積不織ウェブ、スパンボンド不織ウェブ、メルトブローン不織ウェブ、ボンデッド・カーデッド・ウェブ、水圧交絡不織ウェブ、スパンレースウェブなど、並びにこれらの組み合わせを含む。乾式（カード法、スパンボンド法、メルトブローン法、エアレイド法等）及び湿式のいずれか一つの方法によって形成される。

【００１７】

不織布は、乾式法と湿式法のうち、複数の方法を組み合わせて形成されていてもよい。また、サーマルボンディング、ニードルパンチ、ケミカルボンディング等の方法を例示することができる。なお、不織布を製造する方法は、上述の方法に限定されない。他の好適な材料の例は、レーヨン、ポリエステル、ポリプロピレン、ポリエチレン、ナイロン、又は他の熱結合可能な繊維の微小穿孔フィルムウェブ、網状材料など、並びにこれらの組み合わせのボンデッド・カーデッド・ウェブを含むことができる。これらのウェブは、例えば、ポリプロピレン及びポリエチレン並びにそのコポリマーといったポリオレフィン、一般にポリ乳酸、ナイロン、又はその他の熱結合可能な材料のような脂肪族エステルを含むポリエステルといったポリマー材料から調製することができる。

【００１８】

裏面シート２０は、表面シート１０の長さと略同一の長さを有する。裏面シート２０は、ポリマーフィルム、織布、不織布など、並びにこれらの組み合わせ又は構成材などを用いることができる。ポリマーフィルムは、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリエステルなど、並びにこれらの組み合わせから構成することができる。さらに、ポリマーフィルムは、マイクロエンボス加工することができ、印刷されたデザイン、消費者への印刷されたメッセージをもつようにし、及び／又は少なくとも部分的に着色することができる。好適には、裏面シートは、通気性の微孔性フィルムであってもよい。また、裏面シート２０は、着用時の違和感を生じさせない程度の柔軟性を有する材料とすることが好ましい。

【００１９】

吸収体３０は、親水性繊維、パルプを含む。吸収体３０は、下層吸収体３１と、下層吸収体３１上に積層された上層吸収体３２と、によって構成されている。上層吸収体３２は

、下層吸収体３１よりも長手方向Ｌ及び幅方向Ｗにおいて小さい。なお、下層吸収体３１と上層吸収体３２とは、別個に構成されていてもよいし、一体化されていてもよい。また、下層吸収体３１と上層吸収体３２とは、ホットメルト型接着剤によって貼り合わされている。

【００２０】

下層吸収体３１及び上層吸収体３２からなる吸収体３０は、経血などの体液を吸収可能な材料によって形成される。吸収体３０に適した材料は、例えば、セルロース、木材パルプフラフ、レーヨン、綿、及び、ポリエステル、ポリプロピレン又はコフォームのようなメルトブローン・ポリマーを含む。吸収体３０は、親水性繊維又は粉体をエアレイド法によって積層して形成されてもよいし、親水性繊維又は粉体をエアレイド法によってシート状に成形したエアレイドシートでもよいし、ティッシュ（例えば、目付１５ｇ／ｍ^2）上に高吸収ポリマーを混入した粉砕パルプを配置し、ティッシュで包むことによって形成されていてもよい。

【００２１】

サイドシート４１，４２は、表面シート１０と同様の材料から選ぶことができる。但し、サイドシート４１，４２は、吸収性物品１の幅方向外側へ経血の漏れを防止するために、疎水性又は撥水性を有することが好ましい。具体的には、スパンボンド不織布やＳＭＳ不織布などが挙げられる。サイドシートは、肌との当接面を構成する。そのため、肌への擦れ刺激を低減するためには、エアスルー不織布を用いることが好ましい。

【００２２】

サイドシート４１，４２は、表面シート１０の両側に配設される。サイドシート４１，４２は、吸収体３０の側縁の一部及びウイング部４３，４４を覆う。吸収性物品１では、表面シート１０、サイドシート４１，４２、及び裏面シート２０の周縁が接合されて、吸収体３０が内封される。表面シート１０と裏面シート２０との接合方法としては、ヒートエンボス加工、超音波、又はホットメルト型接着剤のいずれか一つ、又は複数を組み合わせることが可能である。

【００２３】

裏面シート２０において、下着と接触する表面には、粘着剤５０が塗布されている（図２参照）。粘着剤５０は、裏面シート２０の非肌当接面上に粘着剤を塗布するか、全面を剥離処理した包装シート７０に粘着剤を塗布した後、裏面シート２０の非肌当接面上に転写することによって形成される。粘着剤５０は、吸収性物品の幅方向における中央において長手方向Ｌに延びるストライプ状に複数配置されている。

【００２４】

粘着剤５０は、ウイング部４３及びウイング部４４において、下着と接触する表面にも設けられる。使用前の状態では、粘着剤５０は、包装シート７０に接しており、包装シート７０によって使用前に粘着剤が劣化するのを防止している。そして、使用時に着用者によって包装シート７０が剥離される。なお、包装シート７０以外の紙等からなる剥離シートによって使用前に粘着剤が劣化するのを防止するように構成してもよい。なお、粘着剤は、例えば、ホットメルト型接着剤を用いることができる。

【００２５】

包装シート７０は、吸収性物品１を個別に包装する。包装シート７０は、吸収性物品１の裏面シート２０側において吸収性物品１と対向する対向面である裏面７１と、吸収性物品１と対向しない非対向面であり、吸収性物品１を収容した状態で外側に位置する表面７２と、を有する。

【００２６】

包装シート７０の材質は、特に限定されるものではなく、例えば、ポリエチレンやポリプロピレン、ポリエステル等のプラスチックフィルムやナイロンフィルムなどの各種フィルム、硫酸バリウムなどのフィラーを入れて延伸させた通気性フィルム、不織布をラミネートさせたフィルム等が挙げられる。包装シート７０の目付は、１０～５０g/ｍ^{2}であり、好ましくは１２～３０g/ｍ^{2}である。

【００２７】
更に、包装シート７０の裏面には、粘着剤の粘着力を低下させることなく剥離可能にする処理が施されている。粘着剤を剥離可能にする加工方法としては、処理面である包装シート７０の全面に剥離処理剤を塗布し、加熱・乾燥する方法、或いは、スプレーにより処理面である包装シート７０の裏面の全面に剥離処理剤を吹きつけることにより薄膜を形成する方法などが挙げられる。剥離処理剤としては、シリコーン系樹脂、フッ素系樹脂、オクタルデシルイソシアネート系樹脂などを例示できる。
【００２８】
包装シート７０の表面７２は、包装シート７０によって吸収性物品１を包装した際に外側に位置する面であり、図２及び図３において視認される面である。包装シート７０の表面７２には、印刷が施されている。図５は、図３のＢ部分の部分拡大図である。包装シート７０には、第１色によって着色された第１着色領域Ａ１１と、第１色によって着色されていない第１非着色領域Ａ１２と、第２色によって着色された第２着色領域Ａ２と、第１色及び第２色のいずれも着色されない非着色領域Ａ３と、第１色によって着色され、かつ第２色によって着色された重畳領域Ａ４と、が設けられている。
【００２９】
第１着色領域Ａ１１は、包装シート７０の全体に設けられており、絵柄からなる表示要素部６１の背景となる非表示要素部６２を構成する。非表示要素部６２は、絵柄や文字を有する表示要素以外の部分である。第１非着色領域Ａ１２は、星柄及びハート柄を示す表示要素部６１を構成する。第２着色領域Ａ２は、第１色と異なる第２色によって印刷されている。第２着色領域Ａ２は、星柄及びハート柄を示す表示要素部６１を構成する。第１非着色領域Ａ１２と第２着色領域Ａ２とは、同形状であって、互いに一部重なって配置されている。
【００３０】
表示要素部６１は、絵柄や文字を含む表示要素を示すように構成されており、吸収性物品１の性能等の特徴や用途を示すことができる。着用者は、吸収性物品１の選択時や吸収性物品１の使用時に包装シート７０の外側から吸収性物品１の性能等を把握することができる。なお、表示要素部６１の表示要素の内容（絵柄のイメージや意味）に基づいて吸収性物品の性能等を示すように構成してもよいし、表示要素の内容と色とに基づいて吸収性物品の性能等を示すように構成してもよい。
【００３１】
このように包装シートに絵柄や色によって装飾を施し、その装飾によって吸収性物品の性能等を示すように構成することにより、後述する収容袋２０１（図８参照）から取り出した状態で吸収性物品１を保管したり、収容袋２０１から取り出した状態で吸収性物品１を持ち運んだりする場合であっても、着用者は、吸収性物品１が包装シート７０に包まれた状態で、包装シート７０の表示要素を見て、昼用の吸収性物品であるか等の吸収性物品１の吸収性能を把握して選択することができる。また、文字等で表す場合と比較して、一見して生理用ナプキンであるとわからないため、中身を認識されたくない場合において好適である。
【００３２】
第２着色領域Ａ２の周囲には、非着色領域Ａ３及び重畳領域Ａ４が設けられている。非着色領域Ａ３は、着色されていない領域であり、包装シート７０の自体の色が示されている。非着色領域Ａ３は、第２着色領域Ａ２の輪郭に沿って配置されている。重畳領域Ａ４は、第１色と第２色と重なった領域であり、第１色よりも濃くかつ第２色よりも濃くなっている。
【００３３】
このように、非着色領域Ａ３が第２着色領域Ａ２の輪郭に沿って配置されていることにより、着色された第１着色領域Ａ１１及び第２着色領域Ａ２と、非着色領域Ａ３との色のコントラストによって、第１着色領域Ａ１１及び第２着色領域Ａ２が浮き立っているように見せることができ、擬似的に表示要素を立体的に表現することができる。また、重畳領

域Ａ４が第２着色領域Ａ２の輪郭に沿って配置されていることにより、第２着色領域Ａ２の輪郭を濃くすることができ、色のコンストラストによって濃淡を付し、あたかも立体的に形成されたように表示要素を示すことができる。

【００３４】

表示要素を立体的に表現することにより、包装シート７０自体の質感を向上させて、包装された状態で吸収性物品の包装体１００をハンカチ等布地のようにみせることができる。また、包装シート自体に立体的な装飾のためのエンボス加工を施さずに、色のコントラストによって立体的に表示要素を表現するため、粘着剤等の剥がれによる不具合の発生を抑制することができる。

【００３５】

図３に示すように、第１非着色領域Ａ１２は、吸収性物品１の幅方向Ｗにおける中央と、吸収性物品１の幅方向Ｗにおける両端部とに設けられている。第２着色領域Ａ２は、幅方向Ｗにおける中央に位置する第１非着色領域Ａ１２と一部重なるように配置されており、幅方向Ｗにおける両端部に位置する第１非着色領域Ａ１２に重なるように配置されていない。すなわち、幅方向両端部に位置する第１非着色領域Ａ１２は、第２色によって着色されてなく、非着色領域Ａ３となる。幅方向中央に位置する第１非着色領域Ａ１２と幅方向両端部に位置する第１非着色領域Ａ１２とは、異なる態様になる。よって、複数の第１非着色領域の装飾パターンを異ならせることができ、装飾性を向上させることができる。

【００３６】

重畳領域Ａ４と第１非着色領域Ａ１２とは、長手方向Ｌにおいて第２着色領域Ａ２に挟んで配置されている。第２着色領域Ａ２の長手方向Ｌにおける両端部には、重畳領域Ａ４と非着色領域Ａ３とが配置されている。重畳領域Ａ４は、非着色領域Ａ３の反対側の端部に設けられている。このように重畳領域Ａ４と非着色領域Ａ３とを設けることにより、第２着色領域Ａ２に対する一方の端部の色を薄くし、他方の端部の色を濃くすることができ、表示要素全体において濃淡を付し、更に立体的に表示要素を示すことができる。

【００３７】

包装シートに着色される色は、例えば、特表2008-507385に記載されている国際照明委員会（Commission Internationale de l’Eclairage）Ｌ＊ａ＊ｂ＊色空間（以下「ＣＩＥＬａｂ」）にしたがって適合されるように構成してもよい。ＣＩＥＬａｂは、ＣＩＥ１９７６基準に基づく、数学的な三刺激値カラースケールである。ＣＩＥＬａｂは、色を定量的に及び正確に記載することを可能にする。ＣＩＥＬａｂは、色をデカルト座標のｘｙｚ空間に類似した３次元空間にプロットすることを可能にする。ＣＩＥＬａｂは、デカルト座標のｘｙｚ空間において、もともとはｘ軸である上に緑から赤までの色を有する。ＣＩＥＬａｂは、この軸をａ軸と見なす。負のａ＊値は緑を表し、及び正のａ＊値は赤を表す。ＣＩＥＬａｂは、デカルト座標のｘｙｚ空間において、もともとはｙ軸である上に青から黄までの色を有する。ＣＩＥＬａｂは、この軸をｂ軸と見なす。負のｂ＊値は青を表し、及び正のｂ＊値は黄を表す。ＣＩＥＬａｂは、デカルト座標のｘｙｚ空間においてもともとはｚ軸である上に明度を有する。ＣＩＥＬａｂは、この軸をＬ軸と見なす。Ｌ＊軸は１００から０までの値を範囲とし、１００は白であり、０は黒である。５０のＬ＊値は中間の灰色を表す（ただし、ａ＊及びｂ＊が０であるという条件である場合）。３つの値（Ｌ＊、ａ＊、ｂ＊）にしたがって、いずれの色もＣＩＥＬａｂ内にプロットされてもよい。

【００３８】

３次元のＣＩＥＬａｂは、彩度、色相、及び明度の３つの色の構成要素を計算することを可能にする。ａ軸及びｂ軸から形成される２次元の空間において、色相及び彩度の構成要素が決定され得る。彩度は、知覚される色の相対的飽和度であり、及びａ＊ｂ＊平面において測定されるときの原点からの距離により決定される。

【００３９】

例えば、ａ＊ｂ＊値（１０，０）を有する色は、ａ＊ｂ＊値（２０，０）を有する色より低い彩度を示す。後の色は前の色より赤いとして定性的に知覚される。色相は、特定の

色の相対的な赤、黄、緑、及び青である。２次元のａ＊ｂ＊空間内で原点からいずれかの色まで半径を作り出すことができる。色相は、０°（正のａ＊軸）から作り出された半径までを測定した角度である。色相は、０°から３６０°までのいずれかの値であることができる。明度はＬ＊の値から決定され、より高い値はより白であり及びより低い値はより黒である。

【００４０】

色の違いである色差ΔＥは、例えば、以下の式に基づいて求めることができる。ΔE=(（ΔL＊）2乗＋（Δa＊）2乗＋（Δb＊）2乗）1/2乗。ここで、Ｌは、明度であり、a＊は赤－緑軸の座標であり、ｂ*は黄－青軸の座標である。基準色に対する色差を測定することにより、包装シート等に印刷される第１色及び第２色の色を特定することができる。

【００４１】

色差は、例えば、以下の方法によって測定することができる。具体的には、まず、基準色となる白色のL*a*b*を、色差測定器（例えば、Konica Minolta社製 CR-300）を用いて測定する。本実施の形態では、測定機器の光源として、C光源(国際照明委員会(CIE)の規格)を用いている。測定機器の測定窓の直径は、１０ｍｍである。また、色差を測定する際の基準色として白色基準板(Y92.0　x0.3145　y0.3198)を用いた。なお、ここでＹは、明るさを指標する値であり、ｘ、ｙは、色度の平面座標である。

【００４２】

次いで、測定した測定値（L*a*b*）を基準色として設定する。次いで、白色基準板の上にサンプルとなる包装シート等（色差の測定対象）を載せて、測定したい色のL*a*b*を測定する。これにより、基準色に対する測定対象の色差を算出することができる。なお、測定したいサンプルの色部分が、測定機器の測定窓よりも小さい場合は、所定部分を切り抜いたものを予め用意しておき、隙間や重なりが出来ないように白色基準版の上に並べて測定する。

【００４３】

第１色と第２色との色差ΔＥは、表示要素の識別性を高めるために、大きい方が望ましく、具体的には、１以上であることが望ましい。第１色と第２色との色差が１以上の場合には、使用者は、一般的に第１色と第２色とを識別することができる。更に、好適には、第１色と第２色との色差ΔＥは、１０以上であることが望ましい。第１色と第２色との色差が１０以上の場合には、使用者は、第１色と第２色とを更に明確に識別することができ、また第１色と第２色との組み合わせによって、より立体的に表示要素を表現することができる。

【００４４】

第１色と第２色とは、補色の関係であることが望ましい。本実施の形態における補色の関係とは、色相が180±45度の範囲である色をさす。好ましくは±15度の範囲であるほうが色を重ねたときに暗い色となりやすくよい。具体的には、例えば、赤色に対する緑色、青色に対するオレンジ色、黄色に対する紫色のような組合せである。

【００４５】

重畳領域Ａ４の面積は、第２着色領域Ａ２の面積に対する１％～５０％であることが望ましい。このような範囲の重畳領域Ａ４を設けることにより、表示要素の輪郭を際立たせて、立体感をくっきりと出すことができる。更に、好適には、重畳領域Ａ４の面積は、第２着色領域Ａ２の面積に対する１０％～３３％であることが望ましい。また、非着色領域Ａ３の面積は、第２着色領域Ａ２の面積に対する１％～５０％であることが望ましい。このような範囲の非着色領域Ａ３を設けることにより、表示要素の立体感をくっきりと出すことができる。更に、好適には、非着色領域Ａ３の面積は、第２着色領域Ａ２の面積に対する１０％～３３％であることが望ましい。

【００４６】

本実施の形態では、図４に示すように、第１色上に第２色が重ねて配置されている。第１色と第２色のうち少なくとも第２色は、光透過性を有するように構成されている。第２色が光透過性を有することにより、第１色と第２色とが重なった際に、第２色と下層の第

１色とが混合したように見せることができる。なお、第２色の明度は、第１色の明度よりも低く構成されている。第２色の明度が低く構成されていることにより、第１色と第２色とが重なった際に、第２色とその下層の第１色が混合したように見せ易くすることができる。

【００４７】

包装シート７０への着色は、周知の多様な着色技術にしたがって施すことができる。着色は、印刷、コーティング、及び含浸が挙げられるが、これらに限定されない。印刷方法は、例えば、凸版印刷、フレキソ印刷、グラビア印刷、オフセット印刷、スクリーン及びインクジェットが挙げられるが、これらに限定されない。

【００４８】

吸収性物品１及び包装シート７０は、幅方向W及び長手方向Ｌに沿った所定の折り位置において、吸収性物品１の表面シート１０を内側にして折り畳まれるように構成されている。具体的には、包装シート７０は、長手方向Ｌに沿った２本の長手折り目ＦＬ１及びＦＬ２を介して折り畳まれ、かつ幅方向Wに沿った幅折り目ＦＷ１及びＦＷ２を介して折り畳まれる。この長手折り目及び幅折り目は、図１及び図２において一点鎖線にて示す。吸収性物品１が折り畳まれた状態で、包装シート７０の長手方向Ｌにおける一方の端部が包装シート７０に貼着される。包装シート７０の端部は、粘着テープ７５によって包装シート７０の一部と貼着される。粘着テープ７５を形成する材料としては、ポリプロピレンフィルム、ポリエチレンフィルムなどの単層フィルムで形成されており、または複数種の樹脂フィルムがラミネートされた多層フィルムで形成されている。

【００４９】

次いで、吸収性物品の包装体１００の折り畳み方法を説明する。図６は、吸収性物品の包装体１００の折り畳み工程を模式的に示した斜視図である。吸収性物品の包装体１００の折り畳み工程は、吸収性物品載置工程と、第１折り工程と、第２折り工程と、接合工程と、第３折り工程と、を有する。

【００５０】

吸収性物品載置工程では、包装シート７０上に吸収性物品１が配置される。包装シート７０と吸収性物品１の裏面シート２０とが対向する。なお、１個の吸収性物品１を個別に包装する寸法の包装シート７０上に吸収性物品１を配置してもよいし、例えば、搬送方向に沿って連続する包装シート上に、所定間隔を空けて複数の吸収性物品を配置するように構成してもよい。本実施形態では、説明の便宜上、１個の吸収性物品を包装する吸収性物品の包装体を用いて折り畳み方法を説明する。

【００５１】

第１折り工程では、図６（ａ）に示すように、包装シート７０と吸収性物品１とが、幅方向Wにおける吸収性物品１の一方の端部側を含む端部領域側から、長手方向Ｌに沿った第１長手折り目（図１参照）ＦＬ１を基点に内側に折り返される。第２折り工程では、図６（ｂ）に示すように、包装シート７０と吸収性物品１とが、幅方向Wにおける吸収性物品１の他方の端部側を含む端部領域側から、長手方向Ｌに沿った第２幅折り目ＦＬ２（図１参照）を基点に内側に折り返される。

【００５２】

次いで、接合工程は、第２長手折り目ＦＬ２を基点に折り返された吸収性物品１及び包装シート７０の幅方向端部を、ホットメルト型粘着剤を介して包装シート７０に対して接着する。本工程により、吸収性物品１が包装シート７０によって個別に包装される。ホットメルト型粘着剤は、包装シートの裏面７１の幅方向端部を、包装シートの表面７２に接着できるように配置されていればよい。

【００５３】

なお、本実施形態では、第１長手折り目ＦＬ１及び第２長手折り目ＦＬ２を基点に折り返された包装シート７０の幅方向の端部を、ホットメルト型粘着剤を介して接着しているが、包装シート７０の幅方向の端部を接着しなくてもよい。また、包装シート７０の幅方向端部の接着方法は、熱溶着、圧着又は超音波溶着によって接着してもよい。

【００５４】
第３折り工程では、図６（ｃ）に示すように、包装シート７０と吸収性物品１とが、吸収性物品１の長手方向Ｌにおける両端部側から、幅方向Ｗに沿った第１幅折り目ＦＷ１及び第２幅折り目ＦＷ２（図１参照）を基点に内側に折り返される。上述した工程が実行されることによって、吸収性物品の包装体１００は、折り畳まれて小型化される。
【００５５】
なお、包装シート７０と吸収性物品１とを、吸収性物品１の長手方向Ｌにおける両端部側から折り返す際は、長手方向Ｌにおける一方の端部側から片方ずつ折り返すように構成してもよいし、長手方向Ｌにおける両端部側から両方を一遍に折り返すように構成してもよい。
【００５６】
このように折り畳むことにより、吸収性物品１を包装シート７０によってコンパクトに個別に包装することができる。吸収性物品１を小型化することにより、小物入れ、ポシェット等のバッグに収納する場合、バッグの収納スペースを大きく占有する事がなく、簡便な携帯を可能とする。また、吸収性物品１をコンパクトに個別に包装することにより、使用時にトイレ等に携帯する際に、折り返さない状態でも手の中に配置し、他人から見えないように保持する事が可能となる。
【００５７】
図３に示すように、包装シート７０の幅方向中央に位置する表示要素部６１は、第１非着色領域Ａ１２によって構成されており、第１長手折り目ＦＬ１と第２長手折り目との間に位置する。また、包装シート７０の幅方向両端部に位置する表示要素部６１は、第１非着色領域Ａ１２及び第２着色領域Ａ２によって構成されており、第１長手折り目ＦＬ１よりも幅方向外側又は第２長手折り目ＦＬ２よりも幅方向外側に位置する。
【００５８】
したがって、包装シート及び吸収性物品を第１長手折り目に沿って折り畳んだ状態又は第２長手折り目に沿って折り畳んだ状態においては、第１長手折り目及び第２長手折り目よりも幅方向外側に位置する表示要素部が見える状態となる。この表示要素部は、第１非着色領域によって構成されている。
【００５９】
一方、幅折り目に沿って折り畳んだ状態では、幅方向における第１長手折り目と前記長手折り目との間に位置する表示要素部が見える状態となる。この表示要素部は、第１非着色領域と第２着色領域とによって構成されている。すなわち、長手折り目に沿って折り畳んだ状態と、幅折り目に沿って折り畳んだ状態とにおいて、表示要素部の構成を異ならせることができるため、装飾態様のバリエーションを増やすことができる。
【００６０】
第１長手折り目ＦＬ１上には、表示要素部６１が設けられており、第２長手折り目ＦＬ２上には、非表示要素部６２が設けられている。包装シート７０の表示要素部６１は、幅方向Ｗにおいて第１長手折り目ＦＬ１を跨って配置され、かつ吸収性物品１を包装した状態における包装シート７０の側部のうち第１長手折り目が配置された第１の側部Ｓ１を跨って配置されている。よって、折り畳んだ状態で、第１の側部Ｓ１（図６参照）に対する幅方向内側及び幅方向外側に表示要素が付され、奥行き感を持たせることができる。
【００６１】
なお、吸収性物品を包装した状態における包装シートの側部のうち第２長手折り目が配置された第２の側部Ｓ２には、非表示要素部６２が配置されている。よって、折り畳んだ状態で第１長手折り目側の第１の側部と、第２長手折り目側の第２側部との装飾態様を異ならせることができ、使用者が見る角度や持つ角度によって吸収性物品の包装体の色や絵柄を異ならせることができる。
【００６２】
次いで、本実施形態に係る吸収性物品の包装体の製造方法の一部について説明する。なお、本実施の形態において説明しない方法については、既存の方法を用いることができる

。吸収性物品の製造方法は、包装シート７０の裏面７１に粘着剤５０を塗布する。この粘着剤は、例えば、ホットメルト型接着剤であり、加熱されることにより柔らかくなる性質を有する。吸収性物品１の裏面シート２０側を粘着剤５０と接するように貼り合わせる。

【００６３】

なお、包装シートの裏面に塗布される粘着剤は、裏面シートに塗布される状態では、柔らかくなるように構成されている。よって、包装シート７０上に吸収性物品１を貼り付ける際に、従来の包装シートのように、包装シートにエンボス加工等によって凹凸が形成されていると、包装シートの裏面に塗布された粘着剤は、凹凸に沿って塗布される。しかし、粘着剤は、時間経過に伴い硬くなるため、吸収性物品に貼り付く際に空気を噛みこんだ状態となる。この空気を噛みこんだ部分の粘着剤は、包装シート側に残り、吸収性物品に転写されないことがある。

【００６４】

しかし、本実施の形態に係る包装シートは、エンボス加工等によって凹凸が形成されていないため、包装シートにおける粘着剤との接触面が平滑であるため、粘着剤を適切に転写することができ、空気噛みによる不具合の発生を抑制できる。また、吸収性物品の粘着剤と包装シートの接着面積を確保することができ、吸収性物品の粘着剤の接着力の低下を抑制することができる。吸収性物品と包装シートとのずれを抑制できるため、使用前の吸収性物品の粘着剤がむき出しになり難い。

【００６５】

また、包装シートの印刷方法は、以下の方法を用いることができる。図７は、印刷方法を説明するための模式図である。具体的には、例えば、包装シートの非表示要素部６２を第１色によって印刷する。図７（ａ）は、非表示要素部６２を第１色によって印刷した状態を示している。第１色によって印刷された第１着色領域Ａ１１によって非表示要素部６２を構成し、第１色が印刷されない第１非着色領域Ａ１２が表示要素部６１を構成する。非表示要素部６２は、白抜きされた部分であり、包装シート７０の基材の色で示されている。次いで、表示要素部６１を第２色によって印刷する。図７（ｂ）は、第１色で印刷されていない包装シートに対して、第２色によって表示要素部を印刷した状態である。第２色によって印刷された第２着色領域Ａ２によって表示要素部６１を構成する。図７（ｃ）は、第１色によって印刷された包装シートに対して、第２色によって印刷した状態を示している。

【００６６】

第１非着色領域Ａ１２と第２着色領域Ａ２とが同じ形状の場合には、例えば、一部ずれるように着色する。これにより、第２色によって印刷した第２着色領域Ａ２によって表示要素部６１を構成し、かつ第１色と第２色とが重ねられた重畳領域Ａ４を第２着色領域Ａ２の輪郭に沿って配置するとともに、第１色と第２色と印刷されない非着色領域Ａ３を第２着色領域Ａ２の輪郭に沿って配置し、立体的な装飾を施すことができる。

【００６７】

第１非着色領域Ａ１２と第２着色領域Ａ２とが相似形の場合には、例えば、双方が重なるように着色する。これにより、第２色によって印刷した第２着色領域Ａ２によって表示要素部６１を構成し、かつ第１色と第２色とが重ねられた重畳領域Ａ４を第２着色領域Ａ２の輪郭に沿って配置して、立体的な装飾を施すことができる。

【００６８】

また、立体的な装飾としては、表示要素部を第１色によって着色した後、第１色の表示要素部の輪郭に沿って第２色によって着色することができる。更に、包装シートを着色する色は、２色に限られず、３色以上であってもよい。

【００６９】

吸収性物品の包装体１００は、収容袋２０１に収容される。図８は、複数の吸収性物品の包装体１００を収容袋２０１に収容した状態の吸収性物品の収容体２００を示した斜視図である。収容袋２０１は、複数の吸収性物品の包装体１００を収容する袋形状である。収容袋２０１の内部には、横方向に並んで複数の吸収性物品の包装体１００が収容される

。収容袋２０１の上部には、開口部２０２が設けられており、着用者は、開口部２０２を介して吸収性物品の包装体１００を出し入れすることができる。なお、収容袋２０１の開口部２０２は、吸収性物品１を出し入れ可能に構成されていればよく、開口部２０２の位置や形状は、図８に示す例に限定されない。

【００７０】

収容袋２０１には、包装シートに付された表示要素を示す収容袋表示部２０３が印刷されている。この収容袋表示部２０３は、包装シート７０に印刷された表示要素と同じ絵柄である星柄とハート柄の組み合わせによって構成されている。収容袋２０１の複数の側面のうち一側面Ｓ３には、内部に収容された吸収性物品の包装体１００を視認可能に構成する窓部２０４が形成されている。ここでいう一側面Ｓ３は、図８において正面に位置する面であり、この側面に形成された窓部２０４は、吸収性物品の包装体１００を構成する包装シートの非表示要素部６２のみを視認できるように構成されている。すなわち、図８の正面側から使用者が収容袋を視認した際に、窓部２０４を介して包装シート７０に付された絵柄等が見えるように構成されず、窓部２０４を介して包装シート７０の絵柄以外無地の部分が見えるように構成されている。

【００７１】

なお、本実施の形態では、収容袋の側面のうち、図８に示す正面側の側面と、上部に位置する側面とに、収容袋の内部に収容された吸収性物品の包装体を視認可能に構成する窓部が形成されている。本発明に係る吸収性物品の収容体は、少なくとも一側面に形成された窓部を介して包装シートの非表示要素部のみが視認できるように構成され、この一側面に収容体表示部が付されていればよく、他の側面に形成された窓部を介して包装シートの表示要素部が視認できるように構成されていてもよい概念である。

【００７２】

また、側面とは、収容体の全ての側面を含んでおり、上方に位置する上面、下方に位置する底面、前側に位置する正面、後側に位置する背面、左方に位置する左側面、右方に位置する右側面等、全ての面を含む概念である。なお、窓部は、内部に収容された吸収性物品の包装体が視認できる構成であればよく、例えば、透明又は半透明であればよい。

【００７３】

窓部が形成された側面には、収容袋表示部２０３が設けられているため、その収容袋表示部２０３における表示要素と、包装シートの非表示要素部とによって、包装シートと同じ装飾を表現することができる。着用者は、収容袋の外部から表示要素部及び非表示要素部を視認して、内部に収容されている吸収性物品１の吸収性能等の特徴や用途を把握することができる。したがって、着用者は、吸収性物品の選択時に収容袋２０１の外側から吸収性物品の性能を把握して選択することができる。

【００７４】

なお、包装シートに印刷されている表示要素と、収容袋表示部２０３における表示要素とは、同一形状であってもよいし、相似形であってもよい。また、包装シートに印刷されている表示要素と、収容袋表示部２０３における表示要素とは、同じ色であってもよいし、色が異なっていてもよい。

【００７５】

窓部２０４を介して包装シートの非表示要素部のみが視認できるように構成されているため、窓部２０４に重ねて吸収性物品の製品名等の文字を付すことができる。窓部２０４に重ねて文字等の情報表示部を付した場合であっても、包装シート７０に付された絵柄と文字が重ならないため、文字の視認性が低下することを抑制でき、文字によって情報を示すことが可能となる。

【００７６】

包装シート７０の表示要素部６１は、包装シート７０の側部のうち第１長手折り目が配置された第１の側部Ｓ１を跨って配置されており、第１の側部Ｓ１の厚み寸法よりも大きい。よって、包装シートの第１の側部を視認した状態では、表示要素を把握し難く、表示要素の内容等を把握し難い。しかし、包装シートの表示要素を含む収容袋表示要素が収容

袋に設けられているため、使用者は、収容袋に示された表示要素を視認して、表示要素の内容等を把握することができる。

【００７７】

収容袋２０１には、内部に収容された吸収性物品の包装体１００を構成する包装シート７０の表示要素部を視認可能に構成する補助窓部２０５が形成されている。吸収性物品の包装体１００を収容袋２０１に収容した状態において、補助窓部２０５を介して表示要素が視認可能であり、収容体の装飾性を向上させることができる。補助窓部は、少なくとも表示要素部の一部を視認できるように構成されていればよい。なお、本実施の形態では、補助窓部は、収納袋における窓部が形成された面と隣接する面に形成されているが、この構成に限られず、窓部が形成された面に補助窓部が形成されていてもよいし、窓部が形成された面と対向する面に形成されていてもよい。

【００７８】

なお、表示要素は、第１色と第２色との組み合わせによって立体的に表示されていてもよいし、第１色又は第２色のみ等、１色で構成されていてもよい。例えば、包装シートの全体を第１色によって印刷し、その上に第２色によって表示要素を印刷する。収納袋の窓部を介して包装シートの第１色のみが視認されるように構成し、収納袋の窓部が形成された面には、第２色で表示要素を印刷する。このような構成によっても、収容袋２０１の窓部２０４が設けられた面に印刷された第２色の表示要素と、窓部を介して視認可能な第１色の非表示要素部とによって、包装シート７０と同様の装飾を施すことができる。すなわち、吸収性物品の包装体１００を収容袋２０１に複数収容した状態において、吸収性物品の特徴や用途を使用者に対して示すことができる。

【００７９】

本実施形態では、包装シートの表面（吸収性物品を包装した際に外側に位置する面）のみに印刷を施しているが、包装シートの裏面（吸収性物品を包装した際に内側に位置する面）のみに印刷を施してもよいし、包装シートの表面と裏面とに印刷を施してもよい。本実施形態では、第１非着色領域と第２着色領域とは、同じ形状となるように構成しているが、第１非着色領域と第２着色領域とが相似形であってもよいし、第１非着色領域と第２着色領域とが類似する形状であってもよい。類似する形状とは、例えば真円形と楕円形である。

【００８０】

本実施の形態では、吸収性物品の裏面シートに設けられた粘着剤は、包装シートと接するように構成されているが、包装シートと粘着剤との間に剥離シートを設け、接着領域が剥離シートによって覆われるように構成されていてもよい。剥離シートは、例えば、不織材、フィルム、紙、ラミネート、及び／又は布（織布を含む）材料、及びこれらの組み合わせのような材料によって形成することができる。

【００８１】

吸収性物品として、吸収性能の異なる複数の吸収性物品を備え、表示要素等によって吸収性物品の性能等を示すように構成されていてもよい。例えば、吸収性物品の包装体として、第１吸収性能の第１吸収性物品を有する第１吸収性物品の包装体と、第１吸収性物品を収容する第１収容袋と、第１吸収性能と異なる第２吸収性能の第２吸収性物品を有する第２吸収性物品の包装体と、第２吸収性物品を収容する第２収容袋と、を備え、第１吸収性能を示す第１表示要素と、第２吸収性能を示す第２表示要素とを設ける。

【００８２】

例えば、第１吸収性物品は、昼用の生理用ナプキンであり、第２吸収性物品は、夜用の生理用ナプキンである。第１吸収性物品の表示要素部は、第１吸収性能を示す第１表示要素を有するように構成し、かつ第２吸収性物品の表示要素部は、第２吸収性能を示す第２表示要素を有するように構成する。例えば、第１表示要素は、昼のイメージを想起させる花柄部とすることができ、第２表示要素は、夜のイメージを想起させる星柄部とすることができる。

【００８３】

収容袋は、第１吸収性物品を収容する第１収容袋と、第２吸収性物品を収容する第２収容袋と、を有しており、第１収容袋の窓部が形成された面には、第１表示要素を示す第１収容袋表示部が設けられており、第２収容袋の窓部が形成された面には、第２印刷要素を示す第２収容袋表示部が設けられている。

【００８４】

着用者は、収容袋の外部から第１表示要素部又は第２表示要素部を視認して、内部に収容されている吸収性物品１の吸収性能を把握することができる。したがって、着用者は、吸収性物品の選択時に収容袋２０１の外側から吸収性物品の性能を把握して選択することができる。表示要素は、絵柄及び／又は記号によって構成されているが、その内容及び数によって吸収性能を表示するように構成してもよい。したがって、着用者は、文字等で吸収性能を表示する場合と比べて直感的に吸収性能を把握することができる。

【００８５】

更に例えば、昼や明るいイメージを想起する絵柄としては、花柄のみならず、太陽柄、ハート柄を用いることができる。このような絵柄の表示要素を用いることにより、昼用の生理用ナプキンであることや、軽い日用（少ない日用）の生理用ナプキンであることを着用者に伝えることができる。一方、夜のイメージを想起する絵柄しては、星柄のみならず、月柄を用いることができる。このような表示要素を用いることにより、夜用の生理用ナプキンであることや、重い日用（多い日用）の生理用ナプキンであることを着用者に伝えることができる。

【００８６】

また、表示要素の絵柄によって吸収性物品の吸収性能を示す構成によれば、文字等によって吸収性物品の特徴を着用者に伝達する構成と比較して、絵柄等による装飾効果を発揮でき、吸収性物品をかわいらしく装飾することができる。更に、着用者は、吸収性物品の選択時における指標が絵柄であるため、選択時に生理の憂鬱な気分を意識せずに、見た目で楽しんで選択することができる。

【００８７】

なお、第１吸収性物品の包装体に付す色と、第２吸収性物品の包装体に付す色は、同じ色であってもよいし、異なる色であってもよい。着色する色の違いによって、吸収性物品の性能等を示すように構成してもよい。例えば、第１吸収性物品を包む包装シートを第１色及び第２色によって着色し、第２吸収性物品を包む包装シートを第３色及び第４色によって着色するように構成してもよいし、第１吸収性物品を包む包装シートを第１色及び第２色によって着色し、第２吸収性物品を包む包装シートを第１色及び第３色によって着色するように構成してもよい。なお、第１吸収性物品の包装体に付す色と、第２吸収性物品の包装体に付す色とを同じ色とする場合には、表示要素の絵柄によって吸収性物品の性能等を示すように構成する。

【００８８】

次いで、変形例に係る吸収性物品の収容体２００Ａについて、図９及び図１０に基づいて説明する。変形例に係る吸収性物品の収容体２００Ａは、吸収性物品の包装体として、第１着色パターンで着色された第１着色パターン包装体１００Ａと、第１色着色パターンと異なる第２着色パターンで着色された第２着色パターン包装体１００Ｂと、を備えており、これらの包装体を収容する。第１着色パターン包装体１００Ａと第２着色パターン包装体１００Ｂとは、同じ吸収性能の吸収性物品の包装体であり、包装シートの着色パターンが異なっている。

【００８９】

第１着色パターン包装体１００Ａの表示要素部６１Ａと、第２着色パターン包装体１００Ｂの非表示要素部６２Ｂとは、同じ色で着色されており、第２着色パターン包装体１００Ｂの表示要素部６１Ｂと、第１着色パターン包装体１００Ａの非表示要素部６２Ａとは、同じ色で着色されている。収容袋２０１には、第１着色パターン包装体１００Ａと第２着色パターン包装体１００Ｂとが交互に配置されている。収容袋表示部２０３Ａは、収容袋の一側面Ｓ３に配置され、第１着色パターン包装体の表示要素部６１Ａと同じ色によっ

て着色されている。

【００９０】

このように構成された吸収性物品の収容体２００Ａによれば、その収容袋表示部２０３Ａにおける表示要素と、包装シートの表示要素部とによって、包装シートと同じ装飾を表現することができる。着用者は、収容袋の外部から表示要素部等を視認して、内部に収容されている吸収性物品１の吸収性能等の特徴や用途を把握することができる。

【００９１】

更に、同じ吸収性能の第１着色パターン包装体１００Ａと第２着色パターン包装体１００Ｂとの着色パターンを異ならせることにより、装飾性を高めることができる。また、第１着色パターン包装体１００Ａの表示要素部６１Ａと、第２着色パターン包装体１００Ｂの非表示要素部６２Ｂとは、同じ色で着色されており、第２着色パターン包装体１００Ｂの表示要素部６１Ｂと、第１着色パターン包装体１００Ａの非表示要素部６２Ｂとは、同じ色で着色されており、２色によって着色されている。したがって、色数を増やすことなく、吸収性物品の包装体のバリエーションを増やすことができる。

【００９２】

また、変形例に係る吸収性物品の包装体とは吸収性能を異なる吸収性物品の包装体においては、第１着色パターン包装体１００Ａと第２着色パターン包装体１００Ｂとは異なる２色によって着色し、第３着色パターン包装体及び第４着色パターン包装体とすることにより、バリエーションを増やすことができる。例えば、昼用の吸収性物品の包装体をピンク色と緑色の２色によって着色し、夜用の吸収性物品の包装体を紫色と黄色の２色によって着色することにより、色の組み合わせによって吸収性能の違いを示すことができる。

【００９３】

なお、変形例に係る吸収性物品の包装体は、例えば、以下の方法によって製造することができる。吸収性物品の製造方法は、公知の方法によって製造することができ、吸収性物品を連続する包装シート上に配置する。図１０は、包装シート上に吸収性物品を配置した状態を示している。吸収性物品は、包装シートの搬送方向に間隔を空けて複数配置されている。

【００９４】

図示しないが、図１０に示す状態で、吸収性物品及び包装シートが搬送方向に沿って折り畳まれた後、製品長さで切断されて、個々の吸収性物品の包装体が製造される。図１０に示すＣＬは、包装シートの切断ラインを仮想的に示した図である。

【００９５】

包装シート７０には、第１着色パターンと第２着色パターンとが搬送方向に交互に印刷されている。各第１着色パターン及び第２着色パターンの搬送方向の長さは、包装シートの製品長さである。例えば、図１０（ａ）は、第１着色パターンと第２着色パターンとの境界が切断ラインＣＬに一致している状態を示している。図１０（ａ）に示す製造方法によれば、第１着色パターンの第１着色パターン包装体１００Ａと、第２着色パターンの第２着色パターン包装体１００Ｂとを連続して交互に製造できる。

【００９６】

また、図１０（ｂ）は、第１着色パターンと第２着色パターンとの境界が切断ラインＣＬとずれて配置されている。各吸収性物品の包装体の後側の端部は、部分的に異なる着色パターンである。このように、吸収性物品の包装体の後側の端部が異なる着色パターンであることにより、吸収性物品の包装体の後側の端部、すなわち包装シートの後端部が目立ちやすくなる。包装シートの後端部は、吸収性物品の包装体を開封する際に、第２幅折り目ＦＷ２（図１参照）を基点に包装シートを展開した状態で把持する箇所である。包装シートの後端部を目立たせることにより、着用者は、把持する箇所を把握し易くなり、容易に開封することができる。

【００９７】

図１０（ｃ）は、第１着色パターンと第２着色パターンとの境界が切断ラインＣＬとずれて配置されている。各吸収性物品の包装体の前側の端部は、部分的に異なる着色パター

ンである。図１０（ｄ）は、図１０（ｃ）の配置パターンによって製造される第２着色パターン包装体１００Ｂを示す図である。

【００９８】

図１０（ｃ）の配置パターンによって製造される第１着色パターン包装体１００Ａ及び第２着色パターン包装体１００Ｂは、吸収性物品の包装体の前側の端部が異なる着色パターンであることにより、吸収性物品の包装体の前側の端部、すなわち包装シートの前端部７０Ｆが目立ちやすくなる。包装シートの前端部７０Ｆは、包装シートが折り畳まれた状態で粘着テープ７５が貼付される部分である。図１０（ｄ）に示す状態の吸収性物品の包装体を開封する際は、粘着テープ７５や包装シートの前端部７０Ｆを把持して、包装シート７０を展開する。よって、包装シート７０の前端部７０Ｆを目立たせることにより、着用者は、把持する箇所を把握し易くなり、容易に開封することができる。

【００９９】

なお、本実施の形態に係る第１着色パターン包装体１００Ａと第２着色パターン包装体１００Ｂは、包装シートの面積のうち半分以上が第１着色パターンであって、一部分が第２着色パターンの第１着色パターン包装体１００Ａや、包装シートの面積のうち半分以上が第２着色パターンであって、一部分が第１着色パターンの第２着色パターン包装体１００Ｂを含む概念である。

【０１００】

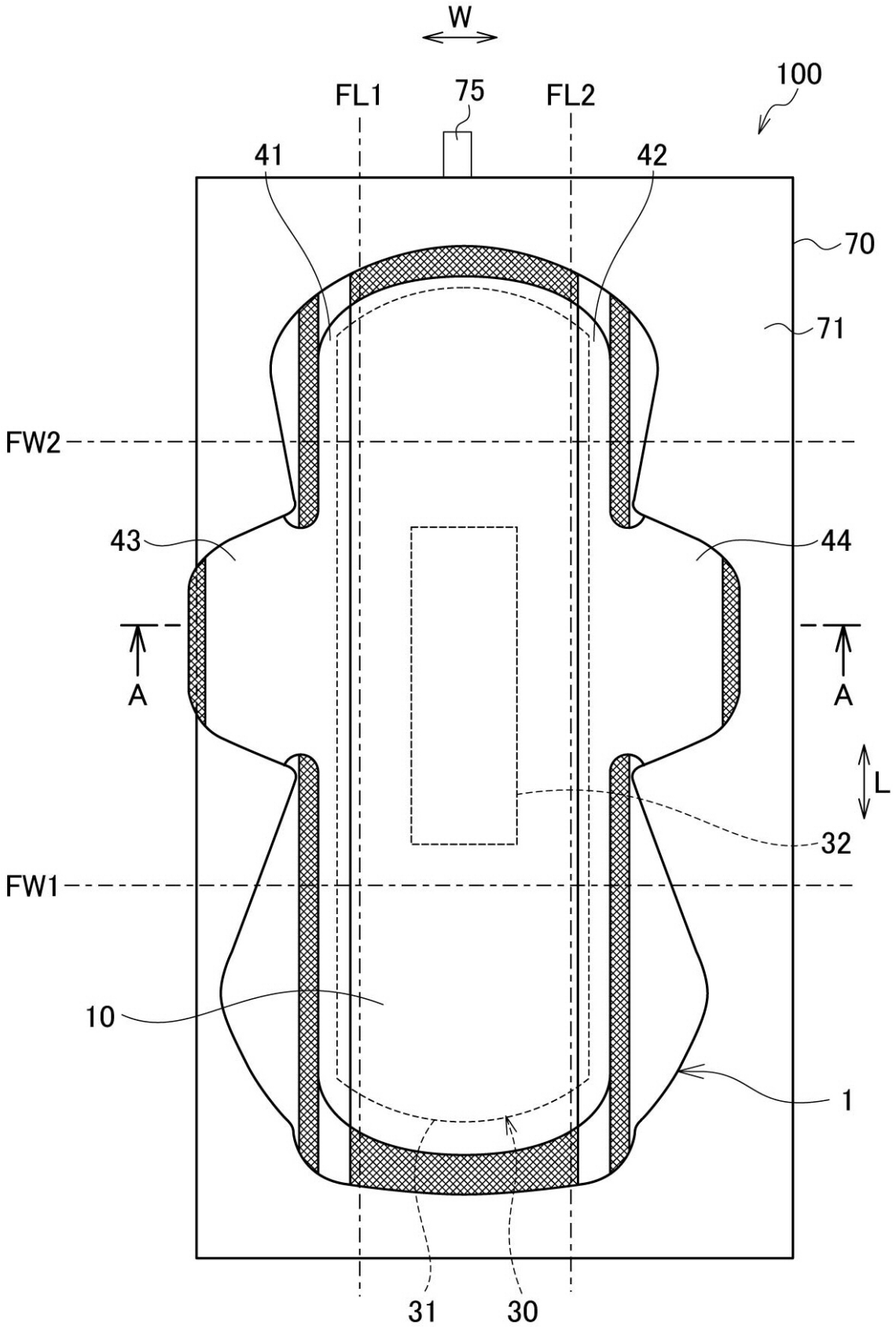
更に、包装シート自体の色を変化させることにより、装飾パターンのバリエーションを増やすことができる。また、第１吸収性物品を包む包装シートと、第２吸収性物品を包む包装シートとの色を異ならせて、吸収性物品の性能等を示すように構成してもよい。

【符号の説明】

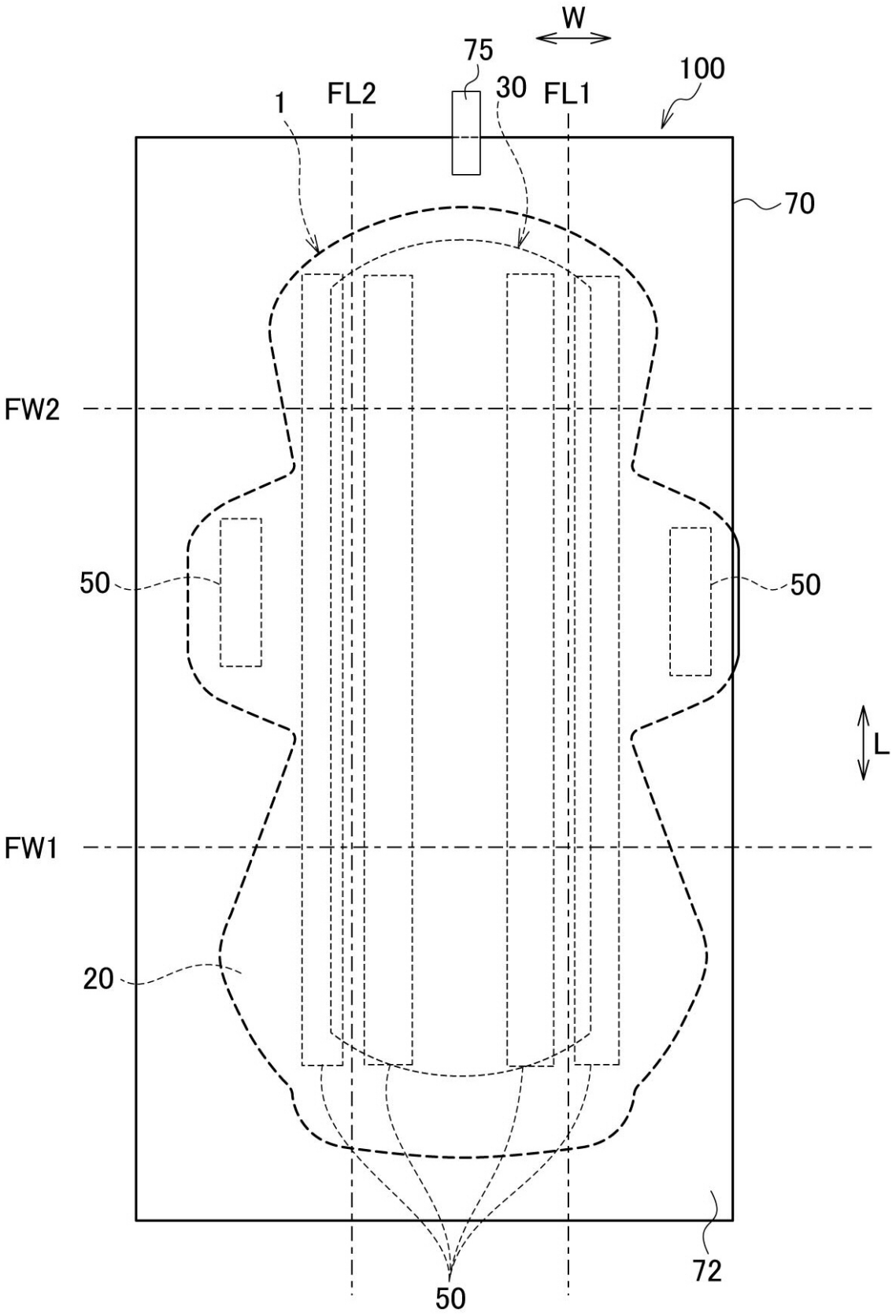
【０１０１】

Ａ１１…第１着色領域、　Ａ１２…第１非着色領域、　Ａ２…第２着色領域、　Ａ３…非着色領域、　Ａ４…重畳領域、　Ｌ…長手方向、　Ｗ…幅方向、　１…吸収性物品、　１０…表面シート、　２０…裏面シート、　３０…吸収体、　３１…下層吸収体、　３２…上層吸収体、　４１，４２…サイドシート、　４３，４４…ウイング部、　５０…接着剤、　６１…表示要素部、　６２…非表示要素部、　７０…包装シート、　７０Ｆ…包装シートの前端部、　７１…裏面、　７２…表面、　７５…粘着テープ、　１００…包装体、　１００Ａ…第１着色パターン包装体、　１００Ｂ…第２着色パターン包装体、　２００…収容体、　２０１…収容袋、　２０２…開口部、　２０３…収容袋表示部、　２０４…窓部、　２０５…補助窓部

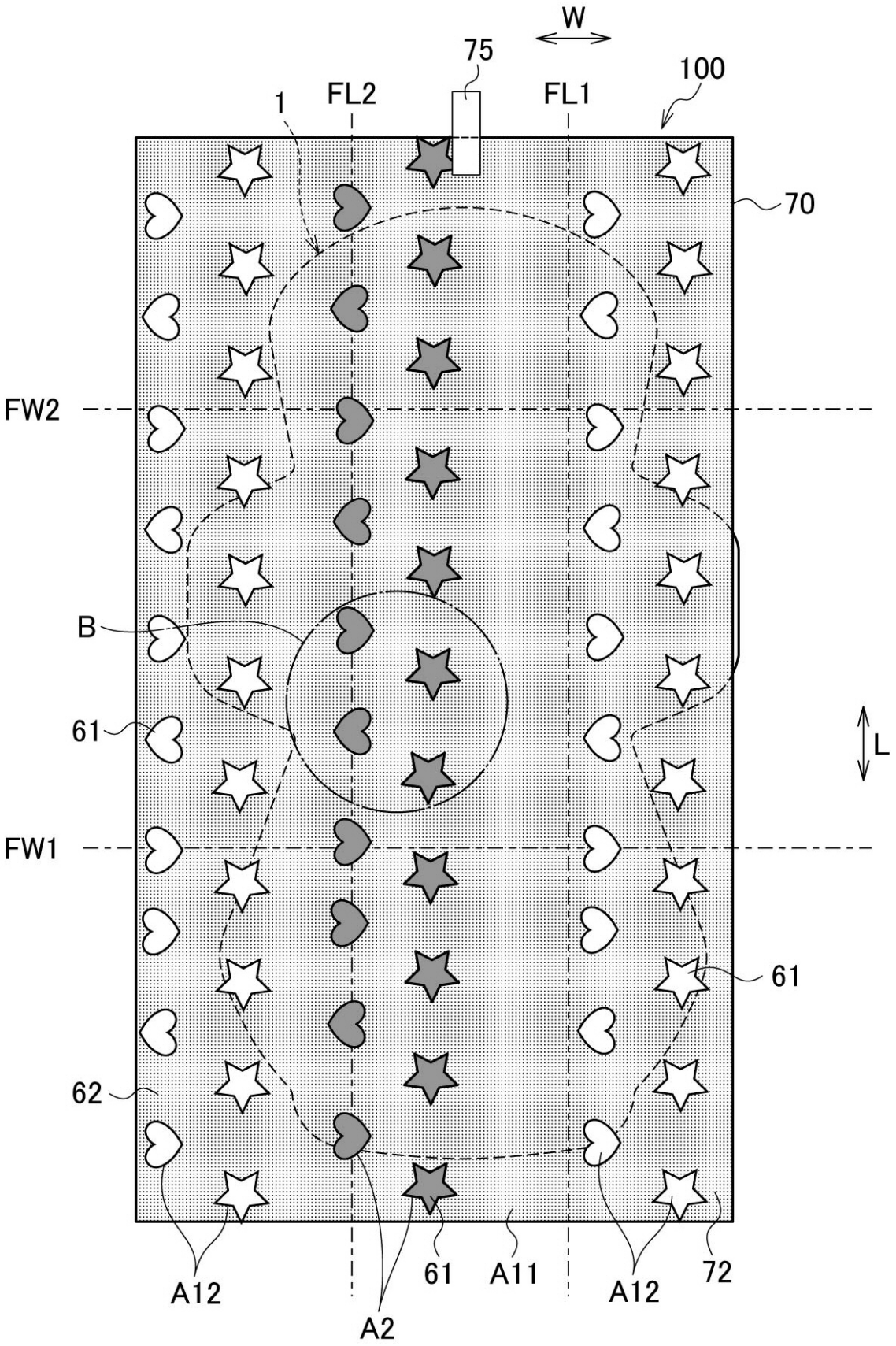
【図１】



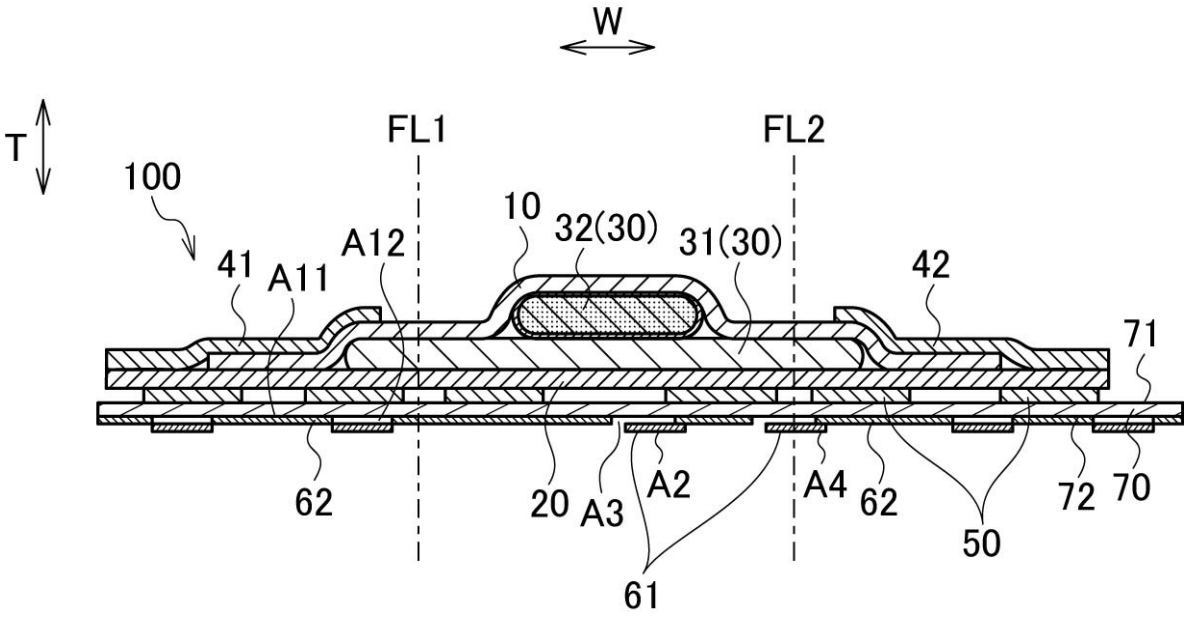
【図２】



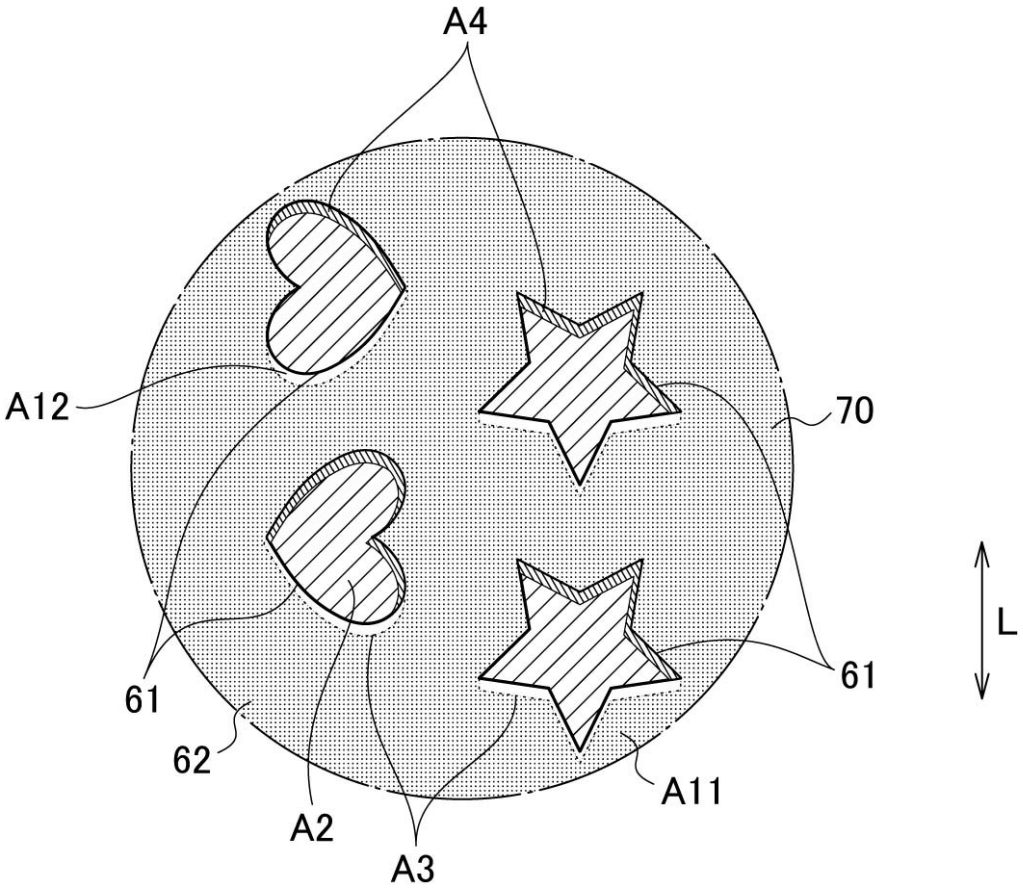
【図３】



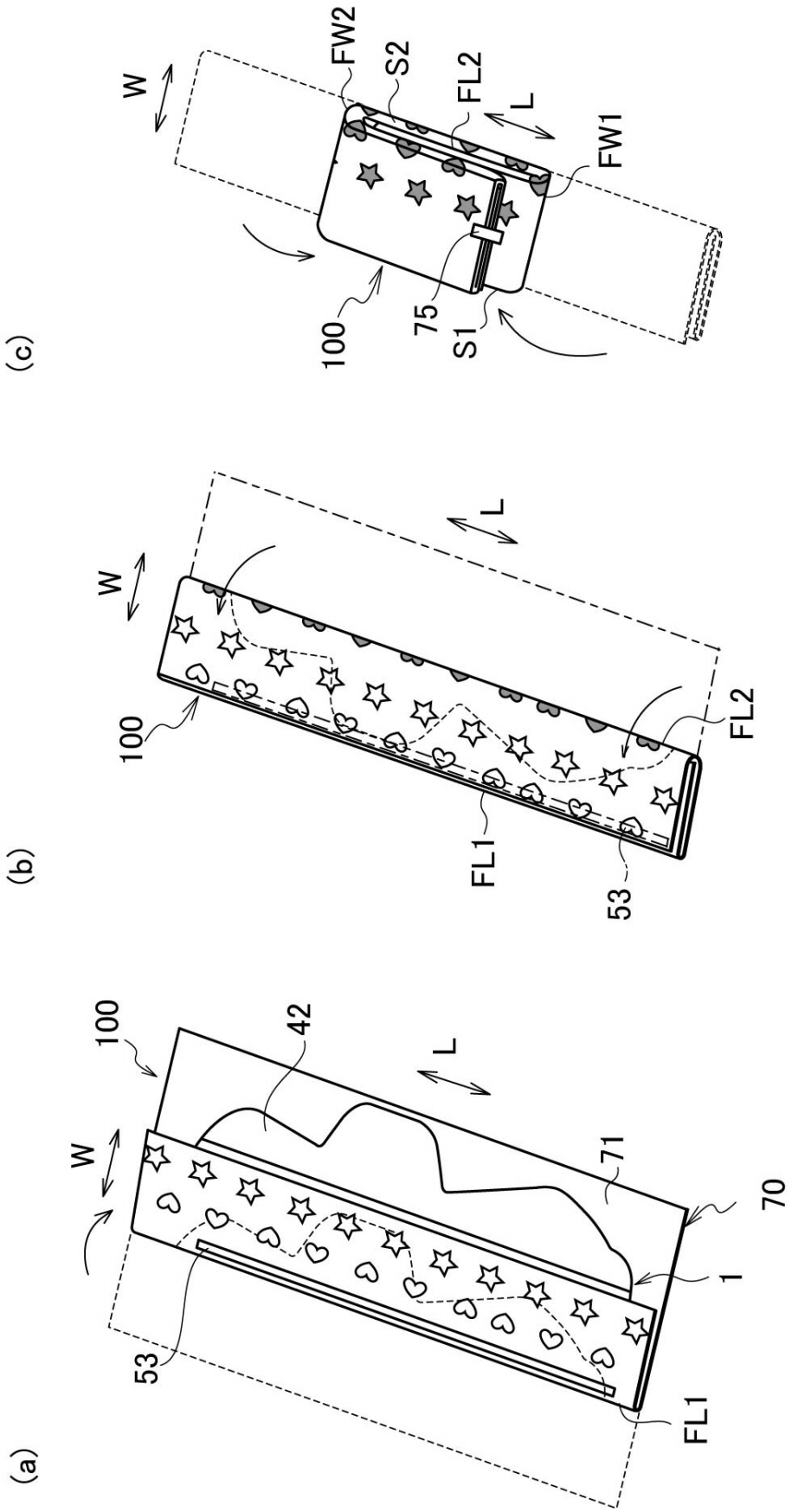
【図４】


W
T
FL1
FL2
100
10
32(30)
31(30)
41
A11
A12
42
71
62
20
A3
A2
A4
62
72
70
50
61

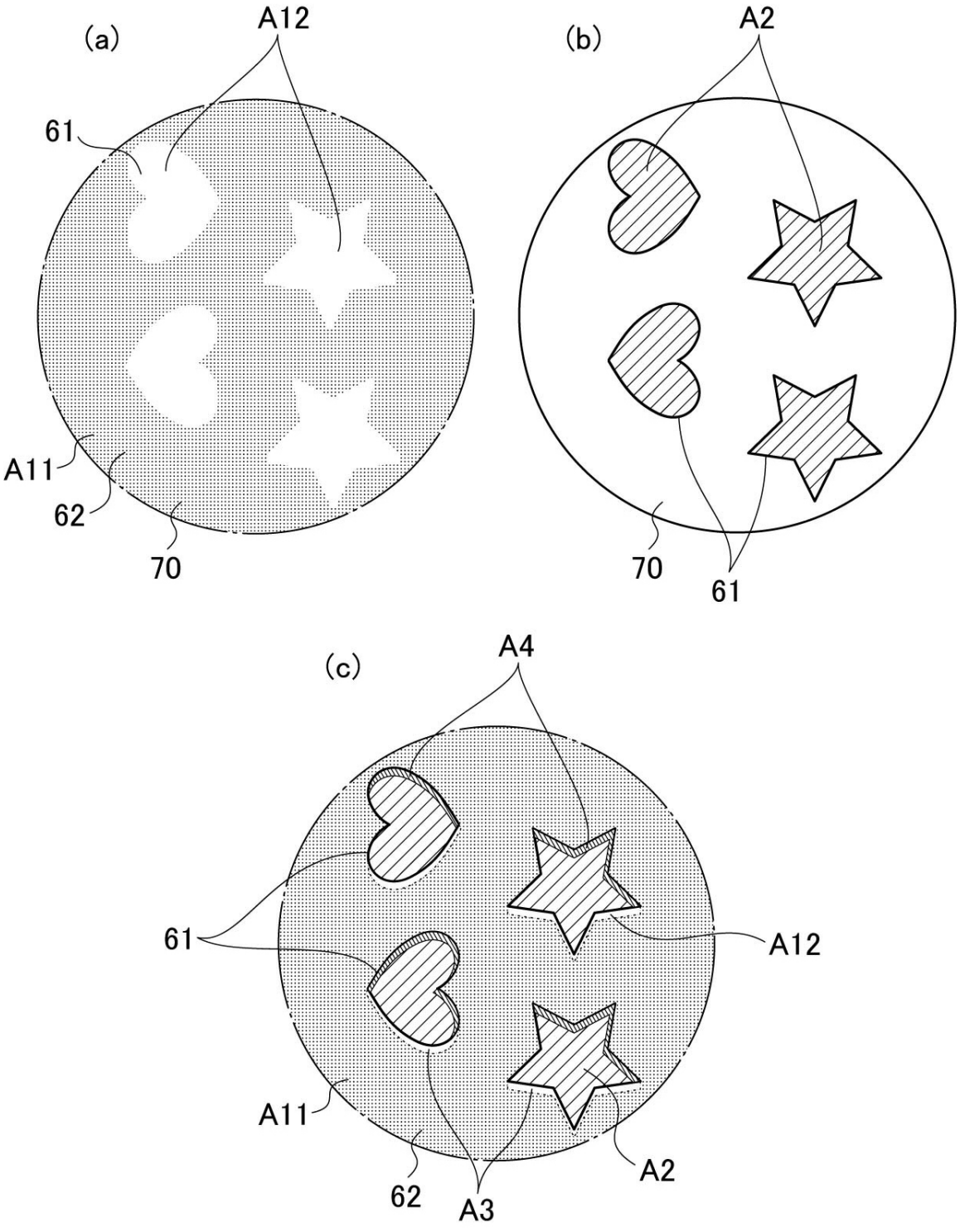
【図５】



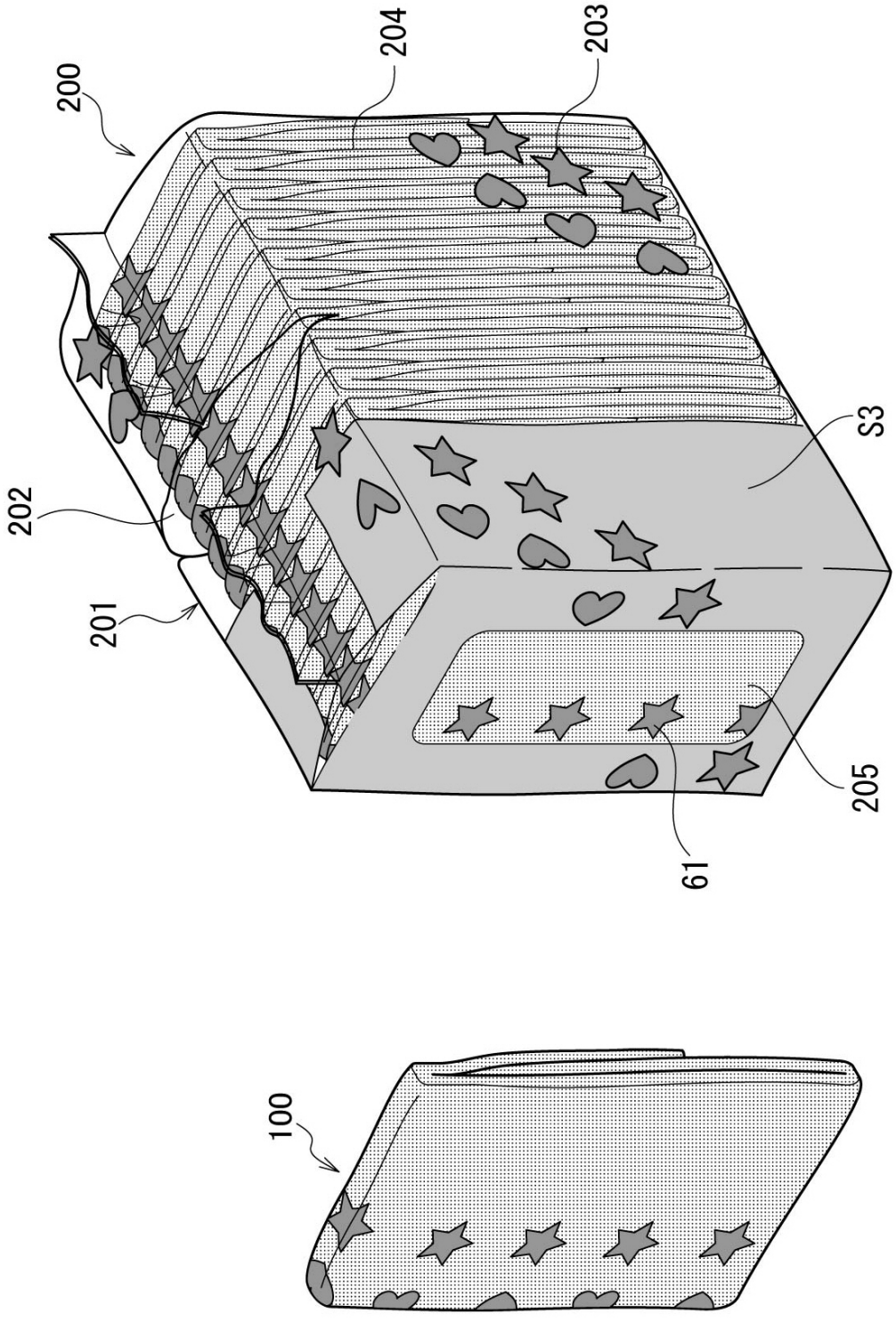
【図６】


(c)
W
FW2
S2
FL2
L
FW1
100
75
S1
(b)
W
L
100
FL2
FL1
53
(a)
100
42
L
W
71
70
1
53
FL1

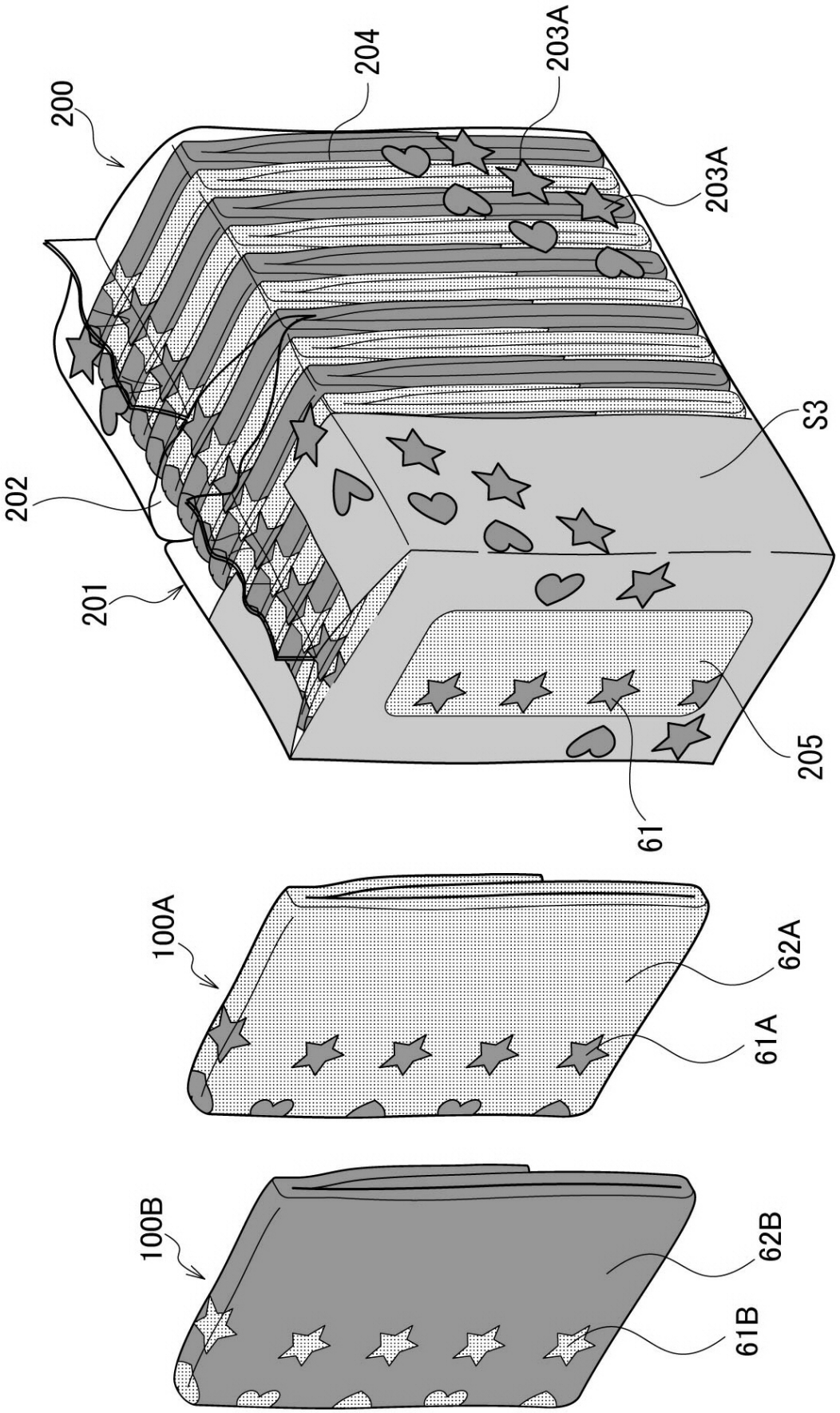
【図７】



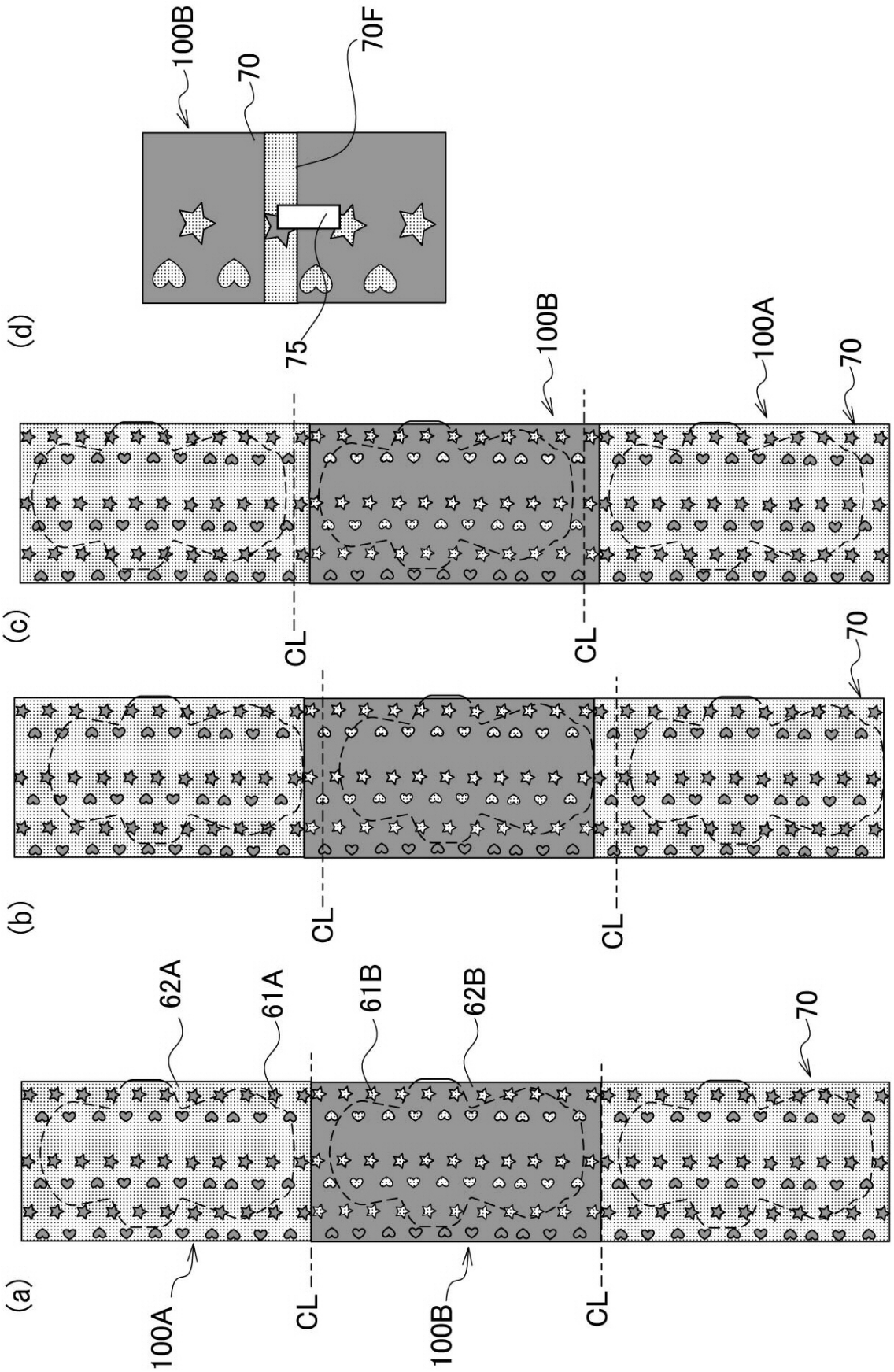
【図８】



【図９】



【図１０】


(a)
100A
CL
100B
CL
62A
61A
61B
62B
70
(b)
CL
CL
70
(c)
CL
CL
100B
100A
70
(d)
75
100B
70
70F

フロントページの続き

(72)発明者　濱田　佐智
東京都港区三田３－５－２７　住友不動産三田ツインビル西館　ユニ・チャーム株式会社内

審査官　西本　浩司

(56)参考文献　特表２００９－５１８２４８（ＪＰ，Ａ）
特表２００４－５３７４７４（ＪＰ，Ａ）
特表２００８－５２８３９８（ＪＰ，Ａ）
特表２００６－５２６５５０（ＪＰ，Ａ）
特表２０１０－５４０３６６（ＪＰ，Ａ）
特表２０００－５１３３０６（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ６１Ｆ　１３／００，１３／１５　－　１３／８４
Ｂ６５Ｄ　３０／１０
Ｂ６５Ｄ　３３／００
Ｂ６５Ｄ　８５／１６